

令和6（2024）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	キジハタ	対象水域	日本海
担当機関名	鳥取県栽培漁業センター、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、島根県水産技術センター、水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部	協力機関名	

1. 調査の概要

秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県（主要10港）、福井県、京都府、兵庫県（6市場）、鳥取県（主要17港）、島根県における月別漁業種別水揚量を集計し、漁獲状況を把握した。また、秋田県、福井県、兵庫県、鳥取県、島根県における種苗放流数を年別に集計した。

2. 漁業の概要

日本海側10府県の2023年総漁獲量は84.5トンであり、富山県（26.6%）、島根県（22.3%）、石川県（20.8%）、鳥取県（8.2%）による漁獲が全体の78%を占めた（図1、表1）。2019～2023年における漁獲動向は府県によって異なったが（例えば、秋田県や山形県では増加、福井県では減少）、全府県として横ばい傾向であった（図1）。月別には4～9月の漁獲が多く、1～3月の漁獲は少なかった（図1）。漁法として刺網・釣り・延縄が主体となる県が多いが、富山県および京都府では定置網による漁獲が主体であった（図2）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：青森県以南、韓国、中国などの岩礁域に生息（栗岩 2018）。
- (2) 年齢・成長：6歳ぐらいまでは急激に成長するが、7歳以降は緩やか（図3）（萱野・

尾田 1994)。寿命は 15 歳程度 (萱野 2012)。

- (3) 成熟・産卵：雌性先熟の雌雄同体の繁殖生態を示し、全長約 30 cm になると雌から雄に性転換する (栗岩 2018)。2 歳魚では一部、3 歳魚から多くの雌が産卵を始める (萱野・尾田 1994)。
- (4) 被捕食関係：長尾類、異尾類、短尾類、魚類等を捕食 (萱野 2001)。被食関係は不明。

4. 資源状態

本資源の資源量指標値は現時点において得られていない。また、漁獲量で資源状態を判断する場合、原則20年間以上の推移を材料とすることが推奨されているが、それが適うのは鳥取県だけである。ここでは10年間以上のデータが得られた石川県・京都府・兵庫県・鳥取県・島根県における漁獲量の推移を述べるに留める。直近10年間 (2014～2023年) における漁獲量は各府県で漸減あるいは減少傾向を示した。直近5年間 (2019～2023年) の漁獲量は石川県～兵庫県では横ばい、鳥取県および島根県では減少し、5府県全体で横ばいであった (図4)。

5. その他

本種の栽培事業が広域的に行われている (図5)。鳥取県では、2018～2020年は約5.4万尾放流していたが、2021年以降は環境収容力に合わせた放流尾数を検討するため、2万尾に調節して放流している。島根県では2016年以降増加、兵庫県では横ばいで推移している (図5)。これら栽培事業を継続することは本種の持続的な資源管理の一助になると考えられる。

鳥取県では自主的な資源管理措置として、鳥取県海区漁業調整委員会指示により、遊漁者を含めた漁獲サイズ制限 (全長27 cm未満の個体は再放流) の徹底に取り組んでいる。

6. 引用文献

- 萱野泰久・尾田 正 (1994) 人工生産したキジハタの成長と産卵. 水産増殖, 42, 419-425.
- 萱野泰久 (2001) 人工魚礁域に蟄集するキジハタの食性. 水産増殖, 49, 15-21.
- 萱野泰久 (2012) 岡山県備讃瀬戸海域におけるキジハタの漁獲実態と資源特性. 岡山水研報告, 27, 12-16.
- 栗岩 薫 (2018) スズキ目ハタ科キジハタ(マハタ属) 「日本魚類館」中坊徹次編, 株式会社小学館, 東京, 235.

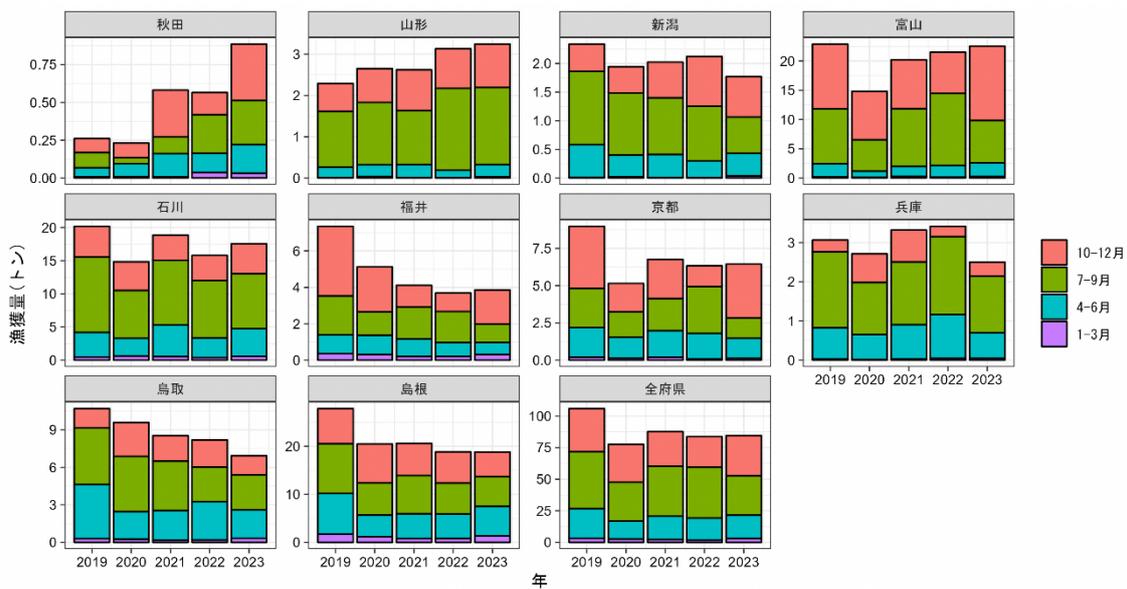


図1. 2019～2023年キジハタ府県別・四半期別漁獲量

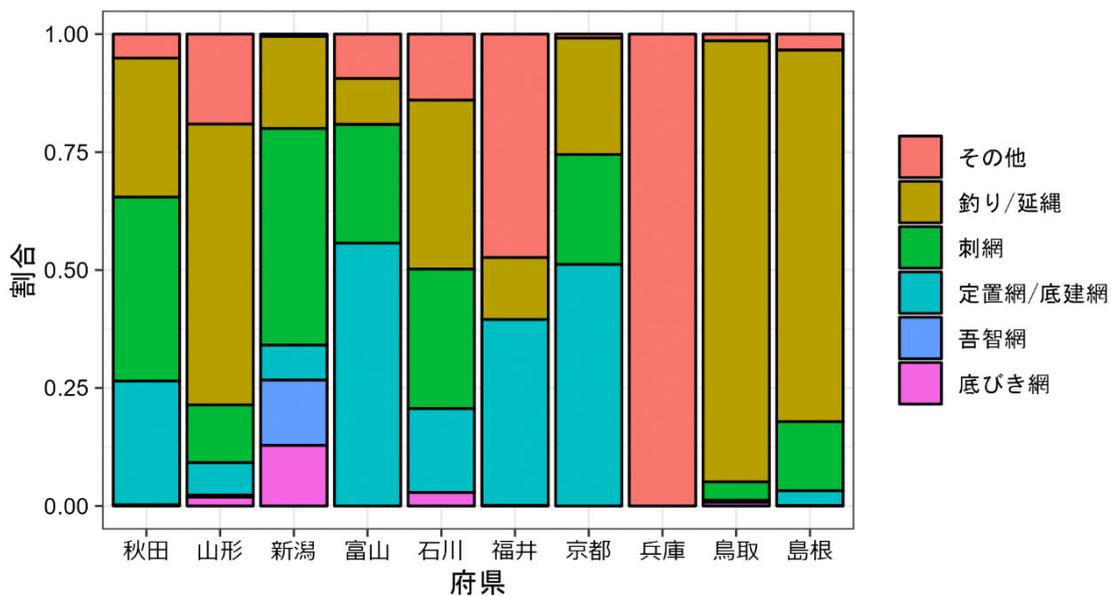


図2. 2019～2023年キジハタ漁法別漁獲量割合

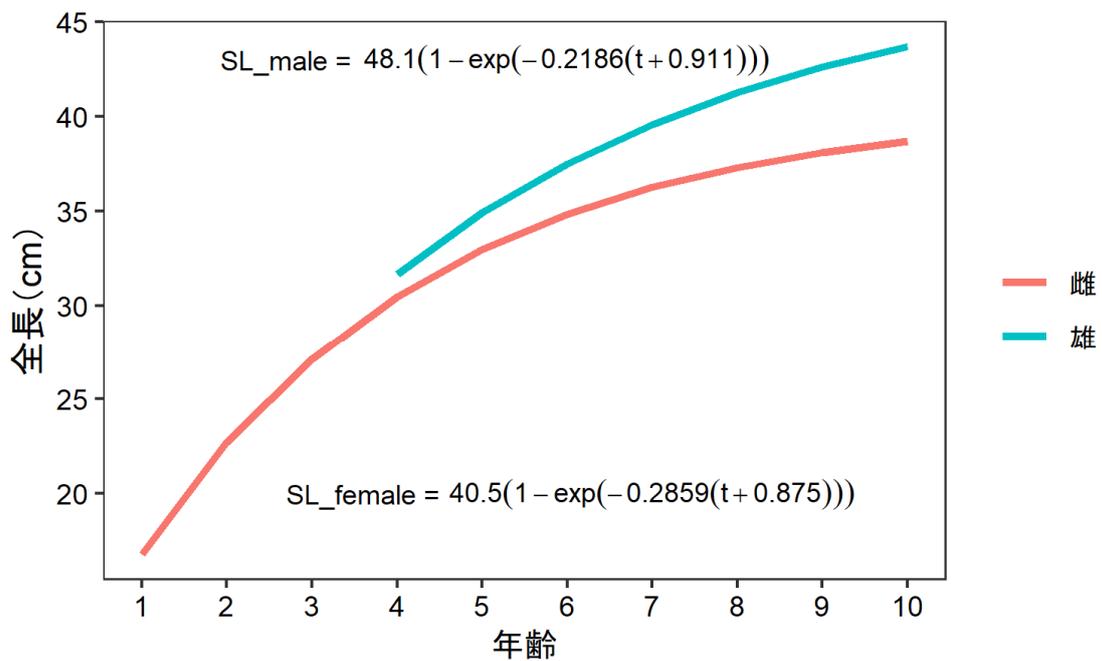


図3. キジハタの雌雄別成長曲線（萱野・尾田（1994）を改変）

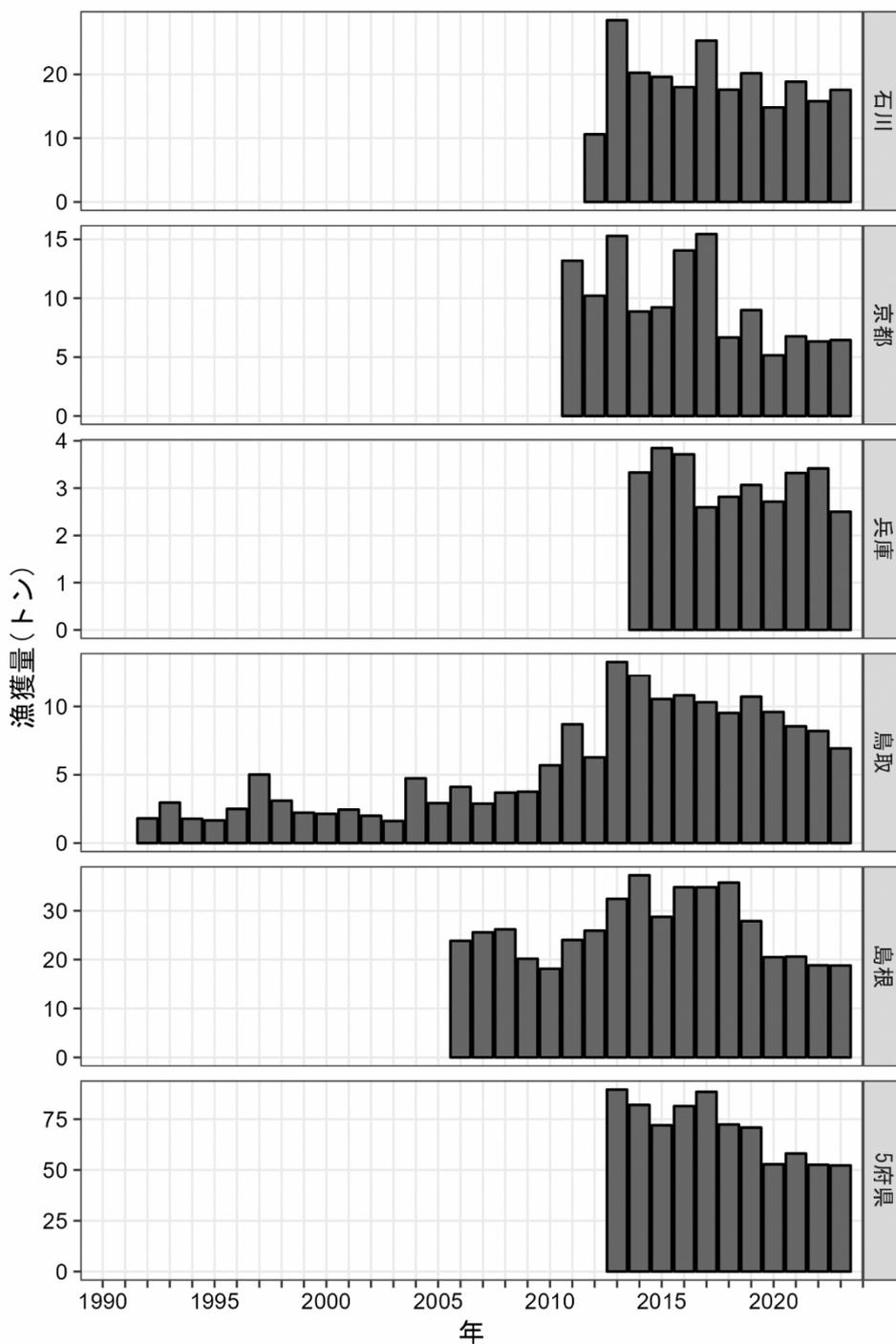


図4. 石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県およびそれら5府県を合計したキジハタ漁獲量

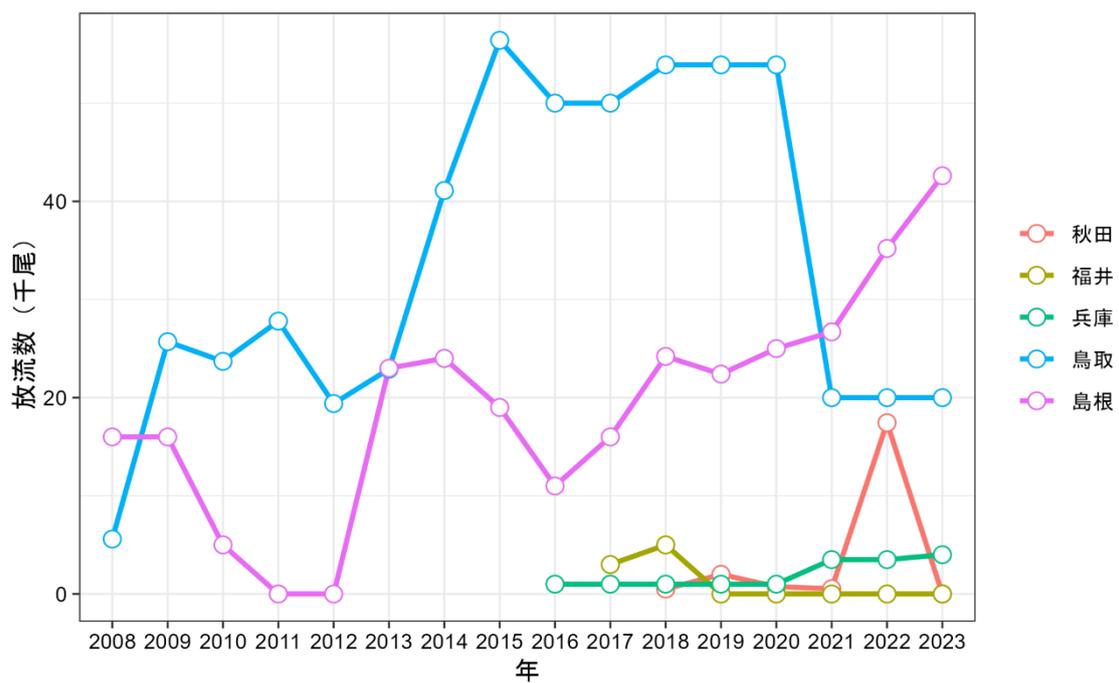


図5. キジハタの県別種苗放流数

表 1. 府県別のキジハタ漁獲量（トン）

年	秋田	山形	新潟	富山	石川	福井	京都	兵庫	鳥取	島根
2006									4.1	23.8
2007									2.9	25.6
2008									3.7	26.2
2009									3.8	20.2
2010									5.7	18.1
2011							13.2		8.7	24.0
2012					10.6		10.2		6.3	25.9
2013					28.5		15.3		13.3	32.4
2014					20.3		8.9	3.3	12.3	37.2
2015	0.2				19.6		9.2	3.8	10.5	28.8
2016	0.3				18.0		14.0	3.7	10.8	34.8
2017	0.3				25.3		15.4	2.6	10.3	34.8
2018	0.4				17.6		6.7	2.8	9.5	35.8
2019	0.3	2.3	2.3	22.9	20.2	7.4	9.0	3.1	10.7	27.9
2020	0.2	2.7	1.9	14.8	14.8	5.1	5.2	2.7	9.6	20.5
2021	0.6	2.6	2.0	20.2	18.9	4.1	6.8	3.3	8.5	20.6
2022	0.6	3.1	2.1	21.5	15.8	3.7	6.3	3.4	8.2	18.8
2023	0.9	3.2	1.8	22.5	17.6	3.9	6.4	2.5	6.9	18.8